



LDAP システムの設定

Cisco CallManager Release 5.0 以降では、ディレクトリの設定を次の 3 つの関連ウィンドウで行います。

- LDAP System
- LDAP Directory
- LDAP Authentication

LDAP Directory の情報と LDAP Authentication の設定値を変更できるのは、お客様の LDAP ディレクトリからの同期化が Cisco CallManager Administration の LDAP System ウィンドウで使用可能にされている場合のみです。

管理者は、このウィンドウを使用して LDAP 同期化を使用可能にし、LDAP サーバのタイプ、およびユーザ ID の LDAP 属性名をセットアップします。



(注)

DirSync サービスの LDAP Directory 設定が作成されるか、LDAP ユーザの認証が有効になると、LDAP System ウィンドウにある設定値は読み取り専用になります。

LDAP システムの情報を設定するには、次のトピックを参照してください。

- [LDAP システムの情報の更新 \(P.12-2\)](#)
- [LDAP システムの設定値 \(P.12-3\)](#)

追加情報

[P.12-4 の「関連項目」](#) を参照してください。

LDAP システムの情報の更新

LDAP システムの情報を更新する手順は、次のとおりです。

始める前に

このウィンドウにある **Enable Synchronization from LDAP Server** チェックボックスの設定によって、管理者がエンド ユーザに変更を加えられるかどうかが決まります。LDAP の同期化はエンド ユーザにのみ適用され、アプリケーション ユーザには影響しません。LDAP の同期化の詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「ディレクトリの概要」を参照してください。

エンド ユーザ データに関して、企業ディレクトリから同期される属性を管理者が End User Configuration ウィンドウで更新することはできません。これらの属性は、企業ディレクトリ自体の内部でのみ更新できます。更新された後に、再同期化を実行する必要があります。



(注)

企業ディレクトリとの同期化が発生する前に Cisco CallManager データベースにエンド ユーザが存在している場合、それらのエンド ユーザは削除されます。Cisco CallManager がすでに他のタイプのサーバと同期されていた場合、既存のユーザは *Delete Pending* ステータスになります。これらのユーザは、夜間に動作するガーベッジ コレクタ プログラムによってデータベースから削除されます。

手順

- ステップ 1** System > LDAP > LDAP System の順に選択します。
- ステップ 2** 適切な設定値を入力します (表 12-1 を参照)。
- ステップ 3** Save をクリックして、変更内容を保存します。

追加情報

P.12-4 の「関連項目」を参照してください。

LDAP システムの設定値

表 12-1 では、LDAP システムの設定値について説明します。関連する手順については、P.12-4 の「関連項目」を参照してください。

表 12-1 LDAP システムの設定値

フィールド	説明
LDAP システム情報	
Enable Synchronizing from LDAP Server	<p>お客様の LDAP サーバからのデータ同期化を使用可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>LDAP サーバとの同期化を使用可能にすると、次のような状態になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 管理者は、企業ディレクトリと同期されないフィールド（属性）を除いて、エンド ユーザ データの内容を変更できません。エンド ユーザ データの例としては、ユーザの PIN があります。ただし、アプリケーション ユーザ データの内容はいつでも変更することができます。 • 管理者は、LDAP Directory の情報を変更することができます。 • 管理者は、LDAP Authentication の情報を変更することができます。 <p>LDAP サーバとの同期化を使用可能にしない場合（同期化が無効になっている場合）は、次のような状態になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 管理者は、LDAP Directory の情報を変更できません。 • 管理者は、LDAP Authentication の情報を変更できません。
LDAP Server Type	<p>LDAP サーバとの同期化が使用可能になっている場合は、このドロップダウン リスト ボックスで次のいずれかを選択できます。お客様の LDAP サーバのタイプに該当する値を選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Active Directory • Netscape LDAP Server
LDAP Attribute for User ID	<p>LDAP サーバとの同期化が使用可能になっている場合は、ユーザ ID の LDAP 属性値を選択できます。ドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの値を選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Active Directory の場合： <ul style="list-style-type: none"> — sAMAccountName — mail — employeeNumber • Netscape LDAP Server の場合： <ul style="list-style-type: none"> — uid — mail — employeeNumber

関連項目

- [LDAP システムの設定 \(P.12-1\)](#)
- [LDAP システムの情報の更新 \(P.12-2\)](#)
- [LDAP システムの設定値 \(P.12-3\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ディレクトリの概要」
- [LDAP ディレクトリの設定 \(P.13-1\)](#)
- [LDAP 認証の設定 \(P.14-1\)](#)
- [アプリケーションユーザの設定 \(P.86-1\)](#)
- [エンドユーザの設定 \(P.87-1\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「アプリケーションユーザとエンドユーザ」